

# 第46期 ビジネスレポート

2021年7月1日▶2022年6月30日

株主の皆さまへ	1
連結決算ハイライト	3
セグメント別業績	4

## 特集

従業員の安全を見守るサービス 「Work Mate」	5
安全運転支援サービス「D-Drive」	8
株式情報	9
会社情報	10

## 株主の皆さまへ



代表取締役社長 **大内 雅雄**

### ■ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」の基本方針

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

世の中はデジタル化が進み、社会変化のスピードは速く、多様性も増しています。

このような時代の中、ユビテックグループでは、2021年9月に中期経営計画「ユビテック4.0」を策定し、従来のIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用を今後のコア技術の柱と位置づけ、顧客ニーズと社会変化に対応した持続的かつ可変的なビジネスモデルへと転換を図っています。

また、企業理念を「人と社会に安全と快適さ」へと再定義し、特に、企業の安定経営に必要な不可欠な「ヒトの安全と健康」に係るデータの価値創

造を最優先することで、エクスパティーズの向上に努めています。

### ■「ユビテック4.0」注力サービスの進展と今後の展開

「ユビテック4.0」の基本方針に基づき、注力サービスである「Work Mate」では、現場作業者のバイタル・行動データを蓄積して活用を深化させ、「危険予知」機能の開発拡充を進めています。これは労災事故の状態発生検知にとどまらず、データから事故や熱中症などの予兆状態を捉えて、早期の行動変容を促し、未然防止を支援するものです。2021年1月のリリース以降、大手製造企業・建設企業を中心に着実に導入実績は増加しており、労災予防の市場拡大へと歩み始めています。

また、危険予知機能は、ドライバーへも展開を進めています。

2022年9月に新たにサービス開始した「D-Drive」では、酒気帯び確認に加え、「Work Mate」で培ったデータ指標を応用し、運転に支障のある体調変化を検知して安全運転支援を行います。今後はさらに、従来のテレマティクスサービスによる危険運転検知、カーシェアリングサービスによる自動制御の各技術も組み込むことで、交通事故の未然防止に寄与する統合サービスへと発展させていきます。

お客さまの現場課題は日々刻々と変化しています。ユビテックグループでは、データを介して新たな課題を見つけ出し、機能ブラッシュアップと新たな指標開発でサービスを進化させ、お客さまとWin-Winな関係を継続していきます。

今後も、お客さまの真のパートナーとなり、安全と健康の実現を支援し続けることでサステナブルな経営に寄与し、新たな社会基盤の構築にインパクトを与える企業へと成長し続けてまいります。

#### ■2022年6月期業績

2022年6月期は、カーシェア車載機の新型車載機の開発が完了し市場導入を開始したほか、安全見守りサービス「Work Mate」ではブラッシュアップや新指標開発、新規顧客の獲得に向けたプロモーション活動に積極的に取り組んでおり、日本製紙株式会社に採用されるなど、工場・建設現場を中心に導入件数は増加しており業績に寄与しております。加えて、白ナンバー事業者を対象とするアルコール検知義務化に伴い、新たに安全運転管理を包括的に実現するクラウド型安全運転支援サービス「D-Drive」の開発に着手しており、次年度からのサービス開始に向けて準備を進めております。

中期経営計画「ユビテック4.0」で定めた注力サービス、注力分野へのビジネス転換は着実に進んでおり、当該IoT事業の売上高は増収に転じ、損失幅も前年同期より縮小しました。

一方、前年第2四半期からのテレマティクス車載機出荷停止の影響、従来の主力製品であるATM向け紙幣鑑別センサモジュール、通信アミューズメント機器も市場環境の変化による需要減少の影響を受け、当該事業における業績は引き続き厳しい状況が続いております。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は1,170百万円（前年同期比9.3%減少）、営業損失は207百万円（前年同期は営業損失138百万円）、経常損失は206百万円（前年同期は経常損失137百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は210百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失449百万円）となりました。また、2022年6月期の期末配当については、現状の業績を踏まえ、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますことといたしました。

株主の皆さまには深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう、事業転換を着実に進めて業績の改善に努めてまいります。

#### ■今後の施策と体制強化

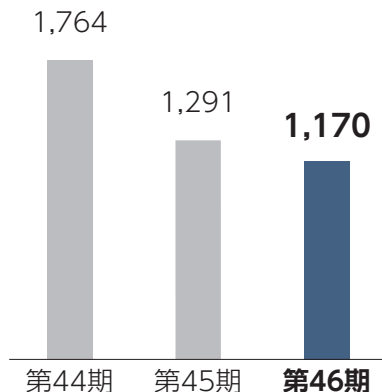
今後は、ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」のもとで、データ価値創造の優先領域である「Work Mate」や「D-Drive」の伸長に注力してエクスパティーズの向上を目指すとともに、当該サービスに従来IoT技術も集約・統合し、高付加価値のサービスに成長させてまいります。また、事業転換に伴い、社内人材の再配置とリスクリングを積極的に行ってAI・データ活用やWebアプリケーションのエンジニア育成を進め、コア技術の体制強化に努めてまいります。

何卒、一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

# 連結決算ハイライト

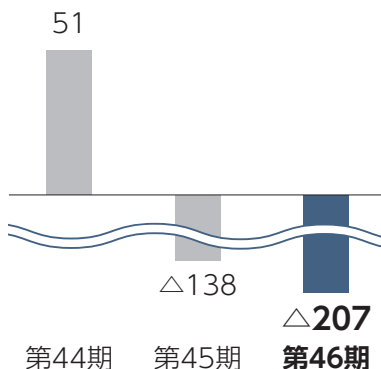
## ■ 売上高

(単位:百万円)



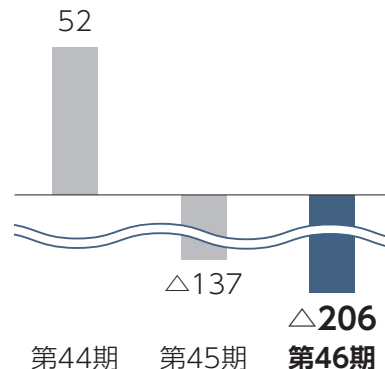
## ■ 営業利益又は 営業損失(△)

(単位:百万円)



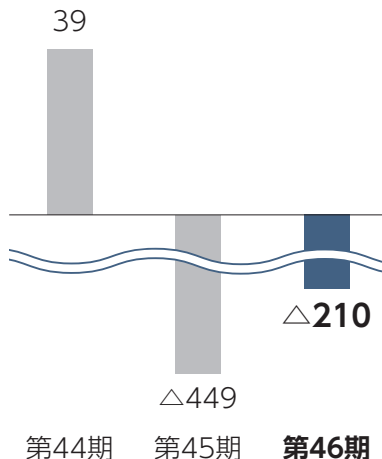
## ■ 経常利益又は 経常損失(△)

(単位:百万円)



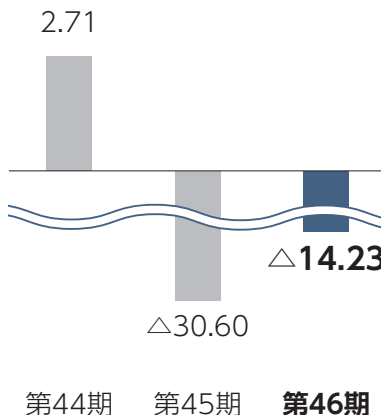
## ■ 親会社株主に帰属する 当期純利益又は 当期純損失(△)

(単位:百万円)



## ■ 1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)

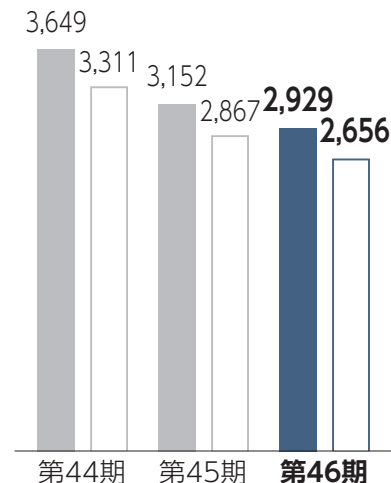
(単位:円)



## ■ 総資産／純資産

(単位:百万円)

■ : 総資産 □ : 純資産

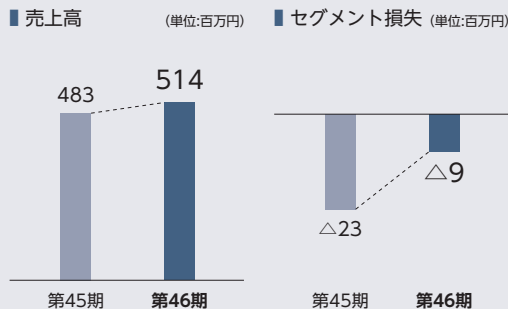


# セグメント別業績

## IoT事業

IoT事業は、前年第2四半期からのテレマティクス車載機出荷停止の影響により、第3四半期までは前年同四半期比で減収となっておりますが、カーシェア車載機の受注が増加したことに加え、Work Mate!につきましても積極的なプロモーション効果などにより導入件数が大きく伸長したことから、売上高は増収に転じ、損失幅も前年同期より縮小しました。

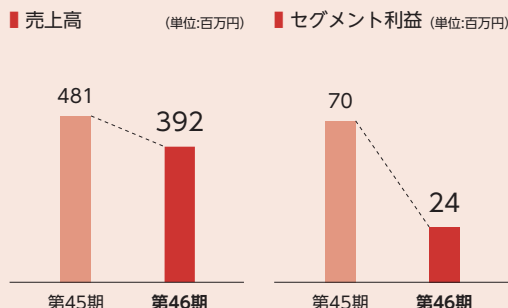
この結果、当連結会計年度の売上高は514百万円（前年同期比6.4%増加）、セグメント損失は9百万円（前年同期はセグメント損失23百万円）となりました。



## 製造受託事業

製造受託事業は、新規の受託開発案件を獲得しましたが、年間を通して紙幣鑑別センサモジュールの受注が減少したことおよび原材料価格高騰に伴う製造コスト上昇の影響を受けたことにより、売上高、セグメント利益とも前年同期比で減収減益となりました。

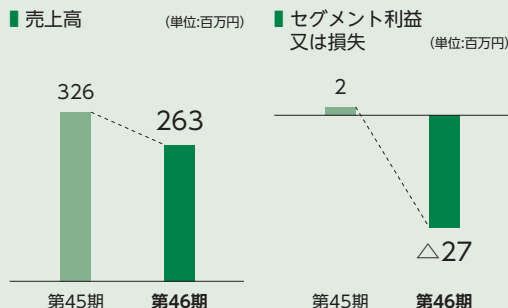
この結果、当連結会計年度の売上高は392百万円（前年同期比18.4%減少）、セグメント利益は24百万円（前年同期比65.8%減少）となりました。



## 開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおいて、新規やスポット案件を獲得しましたが、既存の開発案件縮小の影響をカバーするまでには至らず、売上高は減収、利益面においても前年同期を下回り、セグメント損失を計上することとなりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は263百万円（前年同期比19.1%減少）、セグメント損失は27百万円（前年同期はセグメント利益2百万円）となりました。



# 特集

## B to B AI・データソリューション 従業員の安全を見守るサービス 「Work Mate」

「Work Mate」は、2019年から提供をしている工場、現場作業者の安全を見守るサービスです。スマートウォッチでバイタル情報や加速度、位置の各情報をリアルタイムに取得し、アプリケーションに実装したアルゴリズムから検知した内容を瞬時に管理者へ通知します。屋内外の位置測位を利用することで危険な状況の発生を確認次第、すぐに作業者のもとへ駆けつけることが可能です。

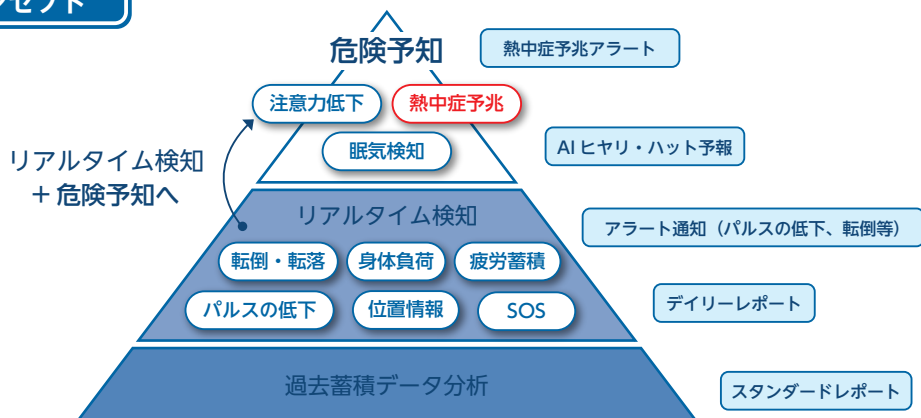
開発当初から暑熱環境の現場、大きな機械装置が視界を妨げるプラント等、労働環境が厳しい現場や管理者の目が行き届かない労働環境で活用されており、近年はデジタル変革（DX）施策とも相まって製造業、建設業、物流といった幅広い業界で活用されています。

導入企業：日本製紙株式会社グループ3工場、NTN株式会社桑名製作所、東洋紡株式会社敦賀事業所敦賀バイオ工場、キリンビール株式会社3工場含む60社

### 画面イメージ



### サービスコンセプト



◇ 「Work Mate」は、医療機器ではなく、疾病の診断、治療、予防を目的としておりません  
※「眠気検知」は開発中



## ご利用者さまへのメリット

製造業・建設業に従事する2020年の労働災害による休業4日以上死傷者数の事故の型は、「転倒」「墜落・転落」「はさまれ、巻き込まれ」が半数を占めます。「Work Mate」は、転倒・転落検知、注意力低下検知、熱中症予兆検知機能などの実装で広範囲な労災事故の未然防止を支援いたします。

未然予防

事故種類	割合			Work Mate 実装機能	
	全業種	製造業	建設業	事故の発生検知	危険予知
転倒	24%	18%	11%	転倒・転落検知	注意力低下検知
墜落・転落	16%	10%	32%		
はさまれ 巻き込まれ	10%	22%	11%	身体負荷レベル（緊張状態）の急上昇 停止検知	注意力低下検知
3大事故 計	50%	50%	54%		
熱中症	—	—	—		熱中症予兆検知

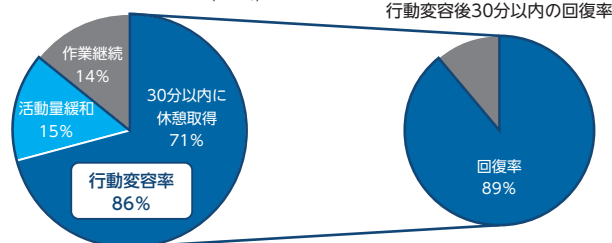
「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況（令和2年確定値）（厚生労働省）  
[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00\\_r02.htm](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00_r02.htm) を加工して作成

## 「Work Mate」の効果

2021年5月～10月に「Work Mate」が発報した「熱中症予兆アラート」は、228件でした。このうち、86%の方がアラートをもとに「休憩」や「作業緩和」といった「行動変容」を実際に起こしたことを確認いたしました。また、行動変容が確認された作業者のうち、89%が行動変容後30分以内に回復に至ったことが確認されました。

また、ご利用者さまへのヒアリングによりますと、熱中症発症の事例はなかったとのご報告をいただいております。「Work Mate」には、現場に気づきを与える一定の効果があると考えております。

熱中症予兆アラート発報後の行動変容  
(n=228)



業種別 行動変容率集計

業種	休憩取得率 a	活動量緩和 b	行動変容率 a+b	行動変容後 回復率
製造業（工場）	68%	17%	85%	87%
建設業	73%	13%	87%	96%
保守（フィールドエンジニアリング）	96%	4%	100%	96%
合計	71%	15%	86%	89%

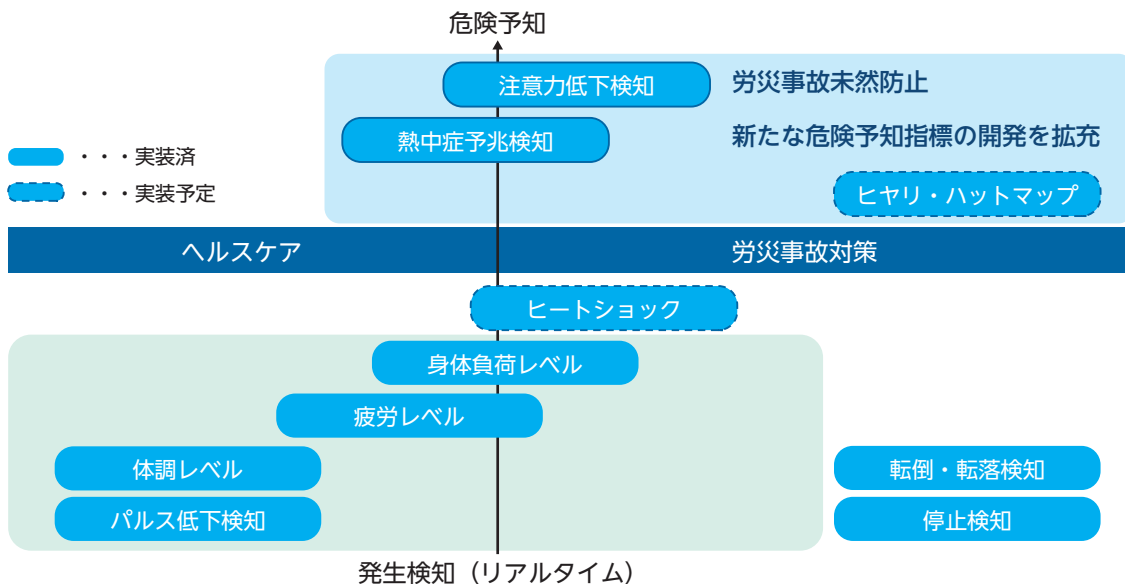
## 今後の展開

### 1. AI・データ活用による労災事故の「危険予知」を深化

2022年4月から試行運用を行っている「注意力低下」検知機能をブラッシュアップいたします。

「Work Mate」は、スマートウォッチでバイタル情報や加速度、位置の各情報をリアルタイムに取得し、転倒・転落や各種体調変化のリアルタイム検知からスタート。バイタル情報をAI分析し、個人ごとに「危険予知」を行い、行動変容を促す「熱中症予兆」検知機能を2021年に追加いたしました。

「注意力低下」検知機能では、工場や工事現場での不安全行動に繋がる「注意力低下状態」をバイタル情報と加速度から検知し、管理者・本人へ通知いたします。作業員の見守り強化や配置転換など現場改善を事前に促すことが可能になる「注意力低下検知」機能を提供することで、事故の削減に貢献いたします。



### 2. 外部サービス連携で利便性の高いサービスを構築

ご利用者さまが現場管理に利用しているサービスとAPI連携の実施をすることで、シームレスに安全管理を行えるようになった実績がございます。

今後もAI・データ活用により利用者さまにとって付加価値の高いサービスを構築し、さまざまな機能をもった外部サービスとの連携を図り、お客さまの利便性向上を目指してまいります。



## モビリティ分野の新しいビジネス開発 安全運転支援サービス「D-Drive」

「D-Drive」は、白ナンバーの自動車を使用する事業者の安全運転管理を包括的に支援するサービスです。5つの機能の一つにまとめてご利用いただけます。

### 「酒気帯び確認・自動記録」機能

：酒気帯び確認結果および検査時の顔写真をクラウドシステムに記録。一元管理ができます。

### 「運行管理」機能（2022年11月サービス開始予定）

：自動で運転日報を作成します。

### 「健康管理機能」（2023年サービス開始予定）

：ドライバーの体調の変化を分析し、危険運転防止をサポートします。

### 「危険運転確認」機能（2023年サービス開始予定）

：車載機と連携し、急な加速や減速など危険な運転を検知して安全意識向上を促します。

### 「自動制御 イグニッションロック」機能（2023年サービス開始予定）

：車載機と連携し、ドライバーの酒気帯び状態や体調変化に応じてエンジンがかからないようにします。



## ▶ ご利用者さまへのメリット

2022年4月1日の道路交通法施行規則の改正に伴い、白ナンバーの自動車を一定台数以上使用する事業者には、酒気帯び確認の記録が義務化されました。ユビテックが提供してきた各サービスの要素技術を融合することで一つのサービスで包括的な安全運転管理を行うことが可能です。

## ▶ 販売の現状

2022年9月より、「酒気帯び確認・自動記録」機能の販売を開始いたしました。宣伝と拡販をすすめてまいります。

## 株式情報 (2022年6月30日現在)

### ■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
オリックス(株)	8,527,200	57.64
日本証券金融(株)	532,500	3.60
糸谷 輝夫	423,700	2.86
(株)SBIネオトレード証券	353,200	2.38
後和 信英	288,600	1.95
叶 毓菁	191,000	1.29
上田八木短資(株)	146,200	0.98
市嶋 朋子	111,100	0.75
梶川 悦子	105,600	0.71
(株)オサムシ	102,000	0.68

### ■ 株式の状況

#### 発行可能株式総数

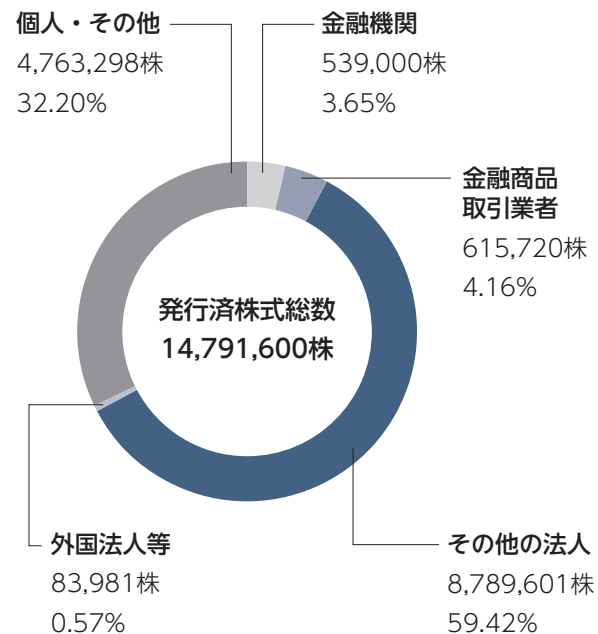
52,000,000株

#### 発行済株式総数

14,791,600株

#### 株主数

3,374名



# 会社情報 (2022年9月27日現在)

## ■ 会社概要

商号	株式会社ユビテック Ubiteq,INC.
設立	1977年11月17日
所在地	〒106-0047 東京都港区南麻布三丁目20番1号 Daiwa麻布テラス
資本金	941百万円
金融商品取引所	東京証券取引所 (スタンダード)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
証券コード	6662
従業員数	80名 (連結)
連結子会社	株式会社ユビテックソリューションズ

## ■ 役員

代表取締役社長	大内 雅雄
取締役副社長	前川 淳
社外取締役	中澤 仁
社外取締役	早野 順一郎
取締役	高橋 英文
取締役	上谷内 祐二
常勤監査役	片野 一宏
社外監査役	津谷 忠男
社外監査役	大月 将幸

## ■ 株主メモ

### 事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日までの1年間

### 基準日

定時株主総会、期末配当 毎年6月30日  
中間配当 毎年12月31日

### 定時株主総会

毎年9月下旬

### 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

### 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1番1号  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

### 郵送先

〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行 証券代行部

### 公告方法

電子公告 (<https://www.ubiteq.co.jp>)

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

### ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

